



メッセージ

## 日本一のエコタウンを 目指して

特定非営利活動法人えどがわエコセンター 会長  
岡島 成行

このたび「えどがわエコセンター設立10周年記念誌」を出版する運びとなりました。センター設立以来、多田正見江戸川区長をはじめ関係者の皆様のご支援により、無事10周年を迎えることができました。厚くお礼申し上げます。

当センターは、江戸川区の長期計画に位置付けられて発足しました。私自身、長期計画の環境部会長として参加させていただき、「江戸川区を日本一のエコタウンにしようではありませんか」と提言しましたところ、多田区長および区幹部、議員の皆さんから大きな賛同をいただきました。その延長線上に、区役所、市民が一体となった新しいNGOを設立するという案が生まれました。それが当センター設立のいきさつです。

今から15年ほど前の江戸川区では、環境問題について、まださほど関心が強いというわけではありませんでした。しかし、長期計画の議論を通じて、委員の皆様の熱が上がってきて、江戸川区は環境部門で東京のトップを走ろうという機運が生まれてきました。エコセンター設立の話もごく自然に生まれ、多田区長の英断で区を挙げての事業となりました。設立委員会が開かれ、「環境に詳しい一部市民だけで運営するのではなく、商店街、中小企業、町内会など江戸川区民の様々な立場の人たちみんなが参加するNGOにしよう」ということに意見が集約されました。

環境問題で様々な立場の区民と一緒に活動を展

開するという試みは、あるようではなかなかありません。おそらく、当エコセンターが最初ではなかろうかと思っております。環境NGOというのは、普通は、環境問題に特に熱心な方々が集まり、活動するものです。しかし当センターは発足当初から「普通の区民」が主体となって活動を続けてきました。商店街連合会の会長さんや町内会連合会の会長さんなどが集まって環境NGOの方々と議論を重ねました。

私はこの姿勢を高く評価いたします。普通の人が積極的に参加して活動を続けるからこそ区民を挙げての運動になり、定着していくことになるのだと思います。一部の熱心な市民だけの運動ではなかなか人がついてきてくれません。

江戸川区は東京23区の一隅にある人口70万の大都市です。ここがエコ化すればすごいことです。東京の中心にある70万の町がエコ化したとなれば、世界が注目します。

長期計画から15年が経ち、江戸川区はすでに、東京随一のエコタウンに成長しております。環境省をはじめ幾つもの表彰を受けています。あと一步踏ん張れば、様々な成果がさらに顕在化し、世界が注目するようになるでしょう。

清らかな地球を取り戻すまで、当センターは今後とも、江戸川区の一員として全力を挙げて活動を展開させていただきます。



メッセージ

## 地域で育む環境づくり

特定非営利活動法人えどがわエコセンター 理事長  
小林 豊

えどがわエコセンターは平成16年にスタートしてから10年の節目を迎えました。年間の総事業数は約200に及び、また、もったいない運動の参加は10万人を超えました。環境活動の輪が着実に広がっていることは、区民、事業者、行政との連携・協働のたまものであり、活動に関わった全ての皆様に感謝申し上げます。

発足に際し、エコセンターには多くの皆さんからとても大きな期待が寄せられました。それは、エコセンターが何かをしてくれるという期待ではなく、自分たちの活躍の場ができた、様々な形とともに活動する場ができたという期待です。

エコセンターでは、「地球規模で考え足元から行動」していくことを目標に、温暖化の防止、ごみ減量・リサイクル、自然環境の保全、環境学習・人材育成、そしてもったいない運動といった多様な活動を行っています。

今エコセンターの10年を振り返ると、NPOとしての特徴を生かし次代を先取りした事業や環境貢献活動など、既存の枠組みに囚われることなく様々な活動を展開してきました。

ユニークな活動としては、油田開発プロジェクトがありました。学校給食や飲食店等の廃食用油を区役所や民間車両のディーゼル燃料として活用するものです。この事業は農水省のバイオ燃料モデル事業にもなり、新エネルギーの地域利用を考える良い機会になりました。

また、環境教育や人材育成には大変力を入れています。教育委員会と連携し、環境学習モデル校

への支援やすすくすくスクールでの放課後出前学習などを行っています。人材育成ではおきがる環境講座や生ごみリサイクル講習会など今までに3千人を超える区民が受講しています。

生物多様性の保全活動では、河川・海浜での動植物のモニタリング調査や清掃活動、江戸川区ゆかりのムジナモという絶滅危惧種の保護活動も行っていきます。

「もったいない運動」では、区民はもとより学校、商店街など環境に配慮した暮らしが大きく広がっています。また事業者のもったいない運動として、江戸川区版環境マネジメント制度「エコカンパニーえどがわ」を推進しています。中小企業を中心に200社を超える企業が環境経営やCSR活動に積極的に取り組んでいます。

エコセンターはこれまでの様々な活動により、二度環境大臣表彰を頂くことができました。このことは、地域の皆さんが主役となって活動することで、多くの共感や参加が得られた結果と考えています。

エコセンターに寄せられたアンケートからは、今後も地域のパートナーシップの拠点として大いに期待されていることがうかがわれます。エコセンターは、これからも地域のあらゆる皆さんと手を携え、日本一のエコタウンを目指して活動を続けてまいります。

今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



メッセージ

## 10年の歩みによせて

江戸川区長  
多田 正見

えどがわエコセンター設立10周年まことに  
おめでとうございます。この10年日本一のエコ  
タウンをめざして、様々な活動を積み重ねてこ  
られたことに対しまして深く敬意と感謝を表  
します。

エコセンターは2002年に江戸川区が策定  
した長期計画「新世紀デザイン」にその構  
想が示されました。20世紀後半の環  
境への意識の高まりと新しい世紀での様  
々な環境問題、そしてそれらに対応する  
ため地域からの新たな取り組みの必要  
性、こういったことを背景に設立された  
のです。この間、設立に向けて2003年  
に検討委員会が発足、現会長の岡島先  
生を中心に委員の皆さんの精力的な1  
年にわたる議論を経て2004年3月に開  
設式を迎えることができました。当時マ  
スコミからも大変注目を浴びての船出  
でした。現在では、会員263名という  
状況のなかで大変活発に活動を展開し  
ています。この結果、エコセンターが  
進める区民の「もったいない運動」への  
参加も年々増え、現在では約10万人  
という規模になっています。

江戸川区は行政と区民、関係団体が  
一緒になって力を合わせ街づくりを進  
めてきたという素晴らしい歴史を持っ  
ています。都内の開発にともなう廃  
棄物などが不法に葛西の海に投棄さ  
れた問題や航空機騒音問題、また成  
田新幹線通過問題などが発生するた  
びに、地域と行政が一体となって、こ  
の問題を解決してきました。これらの  
体験が現在も活動を続ける「環境をよ  
くする運動」へと引き

継がれながら自分たちのまちは自分  
たちで守るという気概が地域には満ち  
溢れているのです。この江戸川区の財  
産ともいえる地域力によりその後の  
新しい環境課題も克服してきました。  
しかし江戸川区では一層複雑かつ高  
度化してくる環境問題への対応とし  
て、新たな取り組みを強力に進める  
ために新しいパートナーシップの  
もとにエコセンター構想を固めた  
のです。さらに、ここに環境分野で  
日本の先頭にいらっしゃる岡島先生  
にご縁をいただき設立にご尽力いた  
だいたうえに現在会長をお勤めいた  
だいていることは、このうえない幸  
運でした。先生には、今後とも江戸  
川区の環境の取り組みをご指導いた  
だきたいと考えております。

現在、地球温暖化への取り組みは  
世界的にもやや沈滞している感があ  
りますが、来年のパリで開かれます  
COP21（気候変動枠組条約締約国会  
議）には2020年以降の国際的な取  
組みが正式に報告されます。日本とし  
てもその責任ある取り組みが求めら  
れていますが、私たちは地域からこ  
ういった課題に取り組んでいかな  
ければなりません。エコセンター  
では今後とも区民の皆さんと一緒  
になって温暖化や様々な環境課題に  
取り組んでいただきたいと思います  
と願ってやみません。

エコセンターの10年の歩みに今  
一度敬意と感謝を申し上げ、一層  
の活躍を心よりお祈りしまして  
お祝いの言葉とさせていただきます。



メッセージ

## エコの精神 ——つながるのが良いこと

慶應義塾大学教授（元環境事務次官）  
小林 光

えどがわエコセンターの活動が10  
年にわたり発展してきましたこと、  
心よりお喜び申し上げます。

社会のあらゆるステークホルダー  
が力を合わせて環境改善に取り組  
むことはとても大事です。しかし、  
その実現は簡単ではありません。  
住み手にとっては一番身近な行政  
体である基礎的自治体の区域で、  
足元の環境の維持改善に取り組  
むことを通じて、このような活動  
を着々と具体化してきたのが、こ  
のセンターであって、素晴らしいこ  
とです。身近な所での取り組みは、  
成果も実感できて、手応え感も高  
く、また、顔の見える仲間による  
作業なので、安心感も得られます。  
都会での人のつながり、ぬくもり  
が乏しくなっていく中、ここ江戸  
川では、区民、区内事業者、そし  
て行政の協働の環境活動に今後  
ますます弾みが付いていくこと  
になると、期待しています。

私は日頃、学生たちに、環境的な  
思考とは何か、ということを考え  
させ、気づかせるように努めて  
います。

ここは教室ではないので、すぐに  
答えを言いましょ。それは、つ  
ながりを発見し、健やかなつ  
ながりを維持し、つながりの力  
で、物事を安定的に無理なく解  
決し、あるいは宝を生み出して  
いこうとする、ということです。  
これが環境思考だと思います。  
40億年以上の歴史を持つ地球  
の生態

系の仕組みも、このようにして  
発展してきました。最近では、  
産業のエコシステムといった言  
語を使う人がいます。原料から  
お客様、そして廃棄や再生の段  
階まで、製品やサービスのヴァ  
リューチェーン全体を見て、そ  
の参加者が報われる形でイキ  
イキと活動できているかを考  
える、といったことを含意する  
言葉です。

例えば、地球温暖化の主原因  
である二酸化炭素を減らすにも  
協力が鍵になります。エネル  
ギーの使用での省エネ率が50%  
、エネルギーの製造者での低  
炭素なエネルギーの割合を50%  
にしたとすると、それが別々に  
行われたのでは、それぞれで  
50%の削減に過ぎません。し  
かし、この努力が組み合わさ  
ると、掛け算で効果が発揮さ  
れ、75%の削減ができること  
になります。つまり、無駄な  
エネルギー消費を減らし、その  
残されたエネルギー需要に、  
炭素を使わないで得られたエ  
ネルギーが供給されることにな  
るからです。協力による掛け  
算のエコです。

智慧や資金、労力、そして取  
組みの場所や機会をうまくつ  
なげ、組み合わせていけば、  
世の中を大きく変えていくこ  
とができます。そして、協  
働の取り組みは経験を重ねて  
一層大きく効果的なものへと  
進化し、育っていくものです。  
エコな江戸川区の次の10年  
の変貌が大いに楽しみです。